

平成26年2月17日（月）

○議長（石橋英和君）順番3、12番 清水君。

〔12番（清水信弘君）登壇〕

○12番（清水信弘君）議長のお許しでございます。始めさせていただきたいと思っております。

こうやって議席を見回してみますと、大分風景が変わってしまいました。1人の方のご冥福と3人の方のご健闘を、心よりお祈り申したいと思っております。

さて、私儀でございますけれども、4月が来ますと結婚満34年になります。よくもったなと思うんですけども、これはすべて私の辛抱、努力と、それによるものでございます。もっとも、この席に家内がおりますと、そっくりそのまま返したるわと言われそうなんですけれども、そのとき、新婚旅行はハワイでございました。1ドル288円で行きました。随分無理したなと今になって思うんですけども、とにかくそういうことでございました。

はじめての食事のときに隣り合わせた方が、NHKの職員でございました。名にし負うNHKでございますから、これは相当の給料をもらっているんだろうなと思って、そのことをぶしつけにも聞いてしまいました。そしたら、その方の答えは、NHKというのは何の略かご存じですかと。皆さんご存じでしょうか。知っていると思っておりますけれども、日本放送協会ではないですかと私は聞きました。その方は、日本薄給協会というんですと。給料が安いということですよ。ほんまかいなと思ったんですけども、奥さんが盛んにうなずいておられましたので、これは間違いないと思えました。自来、NHKの受信料は滞りなく払わしていただいております。

ところが、今回のNHKの会長の、あの発

言なんです。公共放送の会長がそのような発言をすることに対しては、私は受信料を3倍払って応援したいなと思うに至っております。質問に急ぎたいと思っております。払いませんけどね。

高野口小学校重要文化財指定記念式典などの式典について。

高野口小学校が国の重要文化財に指定されたことに伴い、1月26日、記念式が同校体育館で開催されました。そのときに思ったことを含め、今まで感じていたこと、これからの本市の式典等について質問したいと思います。

①高野口小学校の体育館で式典を行うことになった経緯を伺いたく思います。あの程度の参加者を集めるのであれば、会場が広過ぎるし、寒過ぎました。

②開催後、高野口町民からもっと開催を丁寧に教えてほしいとの声が相次ぎました。このことについて教育委員会の見解を問いたく思います。

③以下は全般的な式典について質問します。本市選出の県会議員のあいさつは、順番制で1人にできないものでしょうか。そのほうが順番になった議員も気合いの入ったあいさつができると思うのですが、いかがでしょうか。

④一度あいさつで演壇に立った来賓が式次に含まれる来賓紹介で再度紹介されるのはいかがなものでしょうか。時間の無駄とも思えます。

⑤市議会議員の紹介は、まとめてできないものでしょうか。一人ひとりに拍手をもらっては時間がかかるだけです。50人も議員がいる自治体では、こんな紹介はできないはずで、それら自治体ではどう対応している

のか教えてください。

⑥以前にも提案申し上げましたが、国歌君が代はもっとボリュームを上げてもらいたいと思います。聞こえにくいままで唱和すると、必ず走ってしまっています。先走っているということです。合わそうとすれば必然的に声が小さくなっている。そういうことはご存じだったでしょうか。

2番、税務相談について。

税務相談について、高野口については産業文化会館で行われていましたが、今年はなくなりました。経緯を教えてください。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）12番 清水君の質問項目1、式典に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）高野口小学校に関するご質問にお答えします。

1点目の、旧高野口尋常高等小学校校舎の重要文化財指定記念式を行った経緯につきましては、校舎が国の重要文化財として指定される榮譽を、市を挙げて祝福するためです。これに加えて、戦前に建築された現役の小学校校舎が、はじめて国の重要文化財に指定される意義を実感していただくため、記念講演会と校舎見学会をあわせて実施しました。

記念式会場としては、見学対象の校舎から近く、高野口小学校竣工式などの会場として使用した屋内運動場がふさわしいと判断しました。記念式開催日は、文化財防火デーでもある1月26日とし、冬の開催ということで、会場には4台の大型ストーブを設置しました。

次に、2点目の、旧高野口町民からもっと開催を丁寧に教えてほしいとの声が相次いだことについての教育委員会の見解についてですが、校舎写真入りで記念式開催のお知らせ

記事を平成26年1月号の「広報はしもと」に掲載するとともに、高野口小学校からは同校児童の全保護者あてに、高野口小学校校舎重要文化財指定記念式・講演会・見学会のご案内を1月21日に配布し、参加を促しました。

また、報道機関には、1月16日の市の定例記者会見でマスコミ各社に報道資料を提供し、1月24日に毎日放送が、テレビの報道番組ボックスで記念式開催を紹介してくれました。

記念式・講演会・見学会の開催につきましては、マスコミから一定の評価を得ましたが、参加者が少なかったことは残念なことです。

今後、特定地域に深くかかわる記念式開催の周知については、区・自治会の了解を得た上での回覧板利用などについても検討します。

○議長（石橋英和君）企画部長。

〔企画部長（森川嘉久君）登壇〕

○企画部長（森川嘉久君）次に、式典における本市選出の県議会議員のあいさつを順番制に、とのおただしでございますが、現在、和歌山県議会橋本市選挙区では、議員定数3名となっています。市主催の式典といいましても多種多様であり、そのすべての式典に3名の県議会議員の方々が全員ご参加いただいているわけではありません。直前に欠席される場合もありますので、きっちり順番制をとるのは困難であると考えています。あいさつが多過ぎるのではというご指摘は以前からありますので、来賓の方々と調整の上、適切に対応していきたいと考えます。

次に、ごあいさつをいただいた来賓を改めて紹介する必要はないのでは、というおただしですが、現在は紹介を省略する場合と、再度紹介する場合と二通りあります。県下の状況を確認したところ、各市の対応は分かれています。ご指摘を受け、再度内部で検討を行った結果、今後はごあいさつをいただいた来賓の紹介を省略する方式を基本といたします。

次に、市議会議員の紹介をまとめてできないかについてですが、現在、本市では通常、お一人ずつ紹介しています。この方式をとりますと、議員お一人ずつ、ごく短いごあいさつをしていただくことが可能となります。もしまとめて紹介いたしますと、それは不可能となります。ただし、時間がなくなるときなどは、まとめて紹介をさせていただきます。

他市の状況ですが、一人ずつ紹介する市、まとめて紹介する市、また、壇上に上がったときのみ一人ずつ紹介する市など、対応が大きく分かれています。式典にはそれぞれ伝統がありますので、それを踏まえ、その式典に応じ適切な方法を考えてまいります。

最後に、君が代の演奏についてですが、議員おただしのおり、音量が小さ過ぎると斉唱がばらばらになりがちです。今後は演奏前にチェックを行い、適切な音量を確保できるよう努めます。

○議長（石橋英和君）12番 清水君、再質問ありますか。

12番 清水君。

○12番（清水信弘君）予想どおりの答弁でございました。ただ、高野口小学校の児童に持って帰らしたというのも、それも適切であったと思うんですけれども、どうなんですかね、今、ご両親がどういう学校を出てこられたんか、ちょっとわからないんですけれども、高野口小学校を出ておられない方のほうが私は多いような気がするんです。とって、周りの人はほとんど高野口小学校を出ているんですよ。それで、持って帰れない、持って帰らないとか知らない人が多くて、だいたい文句言ってきたのはご近所の方ばかりでしたわ。そういうところで、広報車の使用はできないものかなという気はするんですけど、その点についてはいかがなものでしょう。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（松田良夫君）確かに、当日参会者が少なかったこと、残念でした。始まる前に玄関に立って、来てくれへんかな、来てくれへんかなと思いながら人の姿を探してました。

来ていただいた方の感想の中で、ご年配の方、昔とっつも変われへんな。ここ、図書館やったのに、今、音楽室になってらと、そういういろんな感慨深いお話を聞かせていただきました。そういう声を聞かせていただきながら、記念式典を開いたこと、良かったなと思っています。

今後も、高野口小学校が重要文化財に指定されたことについては、広く皆さんに知っていただく機会を積極的に設けていきたいと思っています。それは、高野口小学校のいわゆる文化的な価値を町民の皆さんにご理解いただくとともに、子どもに誇りを持ってもらって、さらに学習意欲につながるような、そういう機会を持っていきたいと、ぜひ思っています。

広報車の指摘ですけれども、先日も広報車が走ってました。灯油にガソリン入ったから気をつけてくださいと、そういう緊急性の場合、広報車の宣伝ということも考えられるんですけども、今回の場合、そういうことについてはどうなのかなということを、ふと思いました。ただ、今後、せつかくの機会ですので、いろんな形で個別に知っていただく、例えば回覧板の活用とか、そんなこともぜひ教育委員会としてはやっていきたいと思っています。

今後、引き続いて高野口小学校の見学会とかそういうことについては、学校とも連携しながら計画的に進めていく中で、より多くの方々に高野口小学校の文化的な価値については広く知っていただいて、高野口小学校を支えていける雰囲気というんですか、土壌というんですか、そんなものを積極的に教育委員

会としてもつくっていきたいと思いますので、今後とも、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（石橋英和君）12番 清水君。

○12番（清水信弘君）よろしくお願ひします。

広報車でちょっと回ってもらったら、大分違ったような気がするんですけども、基準について、まだよくわかってないんですけども、私もね。高野口は、選挙のときにわかったんですけども、2時間あったら隅々まで回れますので、よろしくお願ひします。

1番、結構でございます。よろしくお願ひします。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、税務相談に関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（北山茂樹君）登壇〕

○総務部長（北山茂樹君）税務相談、確定申告出張相談事業について、お答えします。

所得税に係る確定申告は国税でもあるため、この出張相談事業は粉河税務署が開催し、開催日や日数、会場等、すべての決定は粉河税務署が行い、橋本市は税務署からの協力要請に基づき、相談事業をお手伝いするという立場、関係にあります。

本年度の本市の出張相談事業は、この2月17日から始まり3月7日までの平日15日間にわたって橋本市民会館において行われますが、ご質問のとおり、本年度より産業文化会館における相談事業がなくなりました。

このことを粉河税務署に確認したところ、粉河税務署は申告件数に対応できる税務署職員が非常に少ないため、できるだけ税務署職員が出向いていく相談日数や会場数を減らしていく方向にあり、また、税務署を統括する国税局から、確定申告に係る出張相談事業を拡大せず、インターネットによる電子申告化、イータックスの普及拡大を図るよう、各税務

署に対し指示が出されているとのことです。

そのため、本年度の粉河税務署管内の出張相談事業は、紀の川市とかつらぎ町に税務署職員が出向かなくなるとともに、岩出市では、昨年度までの17日間の相談日数が11日間に大幅に短縮されました。本市は昨年度と同様、15日間の日数は変わりませんが、会場が橋本市民会館の1箇所となりました。

その結果、粉河税務署の職員事情等を背景に、産業文化会館での出張相談会場がなくなることとなり、市民の納税意識の低下を招かないか、危惧しているところであります。

本市といたしましては、この確定申告出張相談は税務署の事業とはいえ、市民サービスの低下を招くこととなりますので、意を同じくする粉河税務署管内の市及び町とも連携しながら、改善に向けて強く税務署に要望してまいります。

○議長（石橋英和君）12番 清水君、再質問ありますか。

12番 清水君。

○12番（清水信弘君）事情はよくわかりました。税務署の署長は、エリートのカリヤがやるもので、個人的に考えたものかなと思ったんですけども、上からのものだったんですね。いたし方ないとはいえ、税金は払うものだという考えに立った、皆さんもそうですけども、公務員の考えそうなことやと私は思います。

先日も、ちょっと高野口、高野口でもないんですけども、高野口にも工場ありますけども、織物業の社長と、経営者の方と話していたんですけども、固定資産税と労働基準法がなかったら、何ぼでもやっつけていけるんやと。なるほどそうだなと。これは両方とも、地方の経営を支える、労働者を守る、とても大事なものなんですけれども、考えてみたらそうなんですよね。固定資産税は状況にかかわり

なく、これやと決めたものは必ず取っていかれると。商売がどんだけあかんでも取っていかれると。そういうことですよ。それで労働基準法は、給料をこれだと決めたらどんなに仕事がなくとも払わないかん。納期があつて深夜に及ぶ、日曜日に及んだら、割増で払わないかん。これがなかったら生きていけるんやでと。なるほどそうかなという気もしましたわ。そういうところから見ますと、労働基準法に関しては、もうこれさえ守っておれば、公務員の給料がもらえるということで、一番有利な立場にいるのは、その労働基準監督署の職員やないかなと思いました。

以上でございます。終わります。

○議長（石橋英和君）12番 清水君の一本質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時32分 休憩）